

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	八雲町児童交流事業						担当部	教育委員会事務局		
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	教育総務課		
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	庶務係		
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		16 学校教育		4 調和のとれた人間形成づくりを支援する				
		副目的									
	予算区分	款	10	項	1	目	3	大	10	中	1
	根拠法令・個別計画										
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	小牧市と歴史的つながりの深い八雲町児童との交流学习を通じ、学童期の貴重な体験学習のひとつとする。									
	内容 (手段)	<p>夏季の八雲町派遣事業、冬季の小牧市受入事業を行う。募集児童数は、平成23年度から小学6年生32名に変更した。派遣事業は、洋上セミナー2泊、民泊1泊、おぼこ荘宿泊2泊の5泊6日間で体験学習活動を中心としている。(平成23年度は台風による往路のフェリーが欠航となる緊急事態により、往路も航空機に変更し、洋上セミナーのない3泊4日で実施した。宿泊先は平成24年度から小牧荘からおぼこ荘へ変更)</p> <p>受入事業では民泊2泊、小牧勤労センター2泊の4泊5日間に郷土の紹介をするなどの活動を実施している。</p> <p>事務局は、選考委員会、交流委員会、学習会等の開催、学校、引率教諭、八雲町との連絡調整を行う。開催年度により、5年生も募集対象とするなど定員を満たすよう努力している。</p> <p>また、参加者にはフェリー運賃等一部の費用を自己負担してもらっている。</p> <p>自己負担額(平成24年度) 30,200円(フェリー代7,200円、航空賃19,800円、冬の交流事業保護者食事代1,200円、民泊先手土産代2,000円)</p> <p>《直接経費内訳》(平成24年度決算) ・八雲町児童交流事業委託料 3,401,603円 (夏季事業派遣経費・需用費等、冬季事業宿泊経費・交流事業費・需用費)</p> <p>《直接経費内訳》(平成25年度予算) ・八雲町児童交流事業委託料 4,275,000円 (夏季事業派遣経費・需用費等、冬季事業宿泊経費・交流事業費・需用費)</p>									
	受益者負担	有	24年度:30,200円(フェリー代7,200円、航空賃19,800円、冬の交流事業保護者食事代1,200円、民泊先手土産代2,000円)								

コスト	費用			単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額
		直接経費	千円		3,807	4,626	3,401	4,275
費用	正職員	従事者数	人	0.40	0.40	0.40	0.40	
		人件費	千円	2,132	2,132	2,132	2,132	
	その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	
		人件費	千円	0	0	0	0	
	費用合計	千円	5,939	6,758	5,533	6,407		
	対前年比	%		113.7	81.8	115.7		
財源	一般財源	千円	5,939	6,758	5,533	6,407		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	事前(後)学習会	日	目標	12	12	12
実績				12	12	12	
八雲町派遣事業		日	目標	6	6	6	6
			実績	6	4	6	
八雲町受入事業		日	目標	5	5	5	5
			実績	5	5	5	
成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25	
本市の参加児童数	人	目標	40	32	32	32	
		実績	36	32	27		
八雲町からの受入児童数	人	目標	20	16	16	16	
		実績	18	16	16		

事業の自己評価	平成24年度の事業の達成状況	平成23年度から定員を32名に減員しているが、平成24年度は男子児童が11名しか参加がなく、定員に達することができなかったが、八雲町からは児童16名を受け入れ、夏季・冬季の事業を通して交流学习を実施することができた。	
	事業実施における課題	年々、応募児童数が減少する傾向にある。児童が参加しやすい日程や魅力ある事業内容にする等、事業の見直しが必要である。	
	事業を縮小・廃止したときの影響	この事業は、市で行っている唯一の児童学習交流であり、長い歴史もある。事業の廃止・縮小により、参加を希望する児童に、貴重な体験学習の場を提供できなくなる。	
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	交流会などの内容の見直しを、交流委員会に図り、改善をしていく。
平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	この事業は、市で行っている唯一の児童学習交流でもあり、定員についても平成23年度に見直しにより減員したばかりであるため、今しばらく現在のまま続けていく必要があるため、現状維持と判断した。	
	26年度以降の改善案	事業内容や交流日程の見直しを行い、参加する児童や保護者にとって魅力ある事業とする。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。参加した児童の体験が、他の児童やより多くの市民に伝わるように取り組むこと。